札幌北高定時制だより

令和８年度 第８号 2026.11.12

後期の開始にあたって（校長講話より）

後期のスタートにあたり、鈴木校長先生から講話をいただきました。

まず、日没が早くなり寒さも本格化するこの時期における、体調管理や心の保ち方についてお話がありました。 続いて、中学生時代に不登校を経験し、定時制高校を卒業された詩人の谷川俊太郎さんのエピソードが紹介されました。さらに、昭和 25 年に起きた金閣寺放火事件を題材にした二人の作家についても触れられました。 官僚出身のエリートとして「美への嫉妬」に着目し『金閣寺』を描いた三島由紀夫。一方、貧しい家に生まれ、実際に寺での修行経験を持ち、犯人に自らを重ね合わせながら『五番町夕霧楼』や『金閣炎上』を描いた水上勉。この対照的な人生を歩んだ二人が、同じ一つの事件をどう捉え作品にしたのか、読み比べる面白さについて語られました。

「同じ出来事であっても、視点や背景が違えば捉え方は大きく変わります。生徒の皆さんにも、多角的な視点を持って今後の学びや学校生活に取り組んでほしい」と、温かいメッセージが送られました。

また、伝達表彰が行われ、生活体験発表会石狩支部 3 位の中鉢君、定通体連軟式野球大会石狩支部優勝の中西君が校長先生から表彰を受け、全校生徒に披露しました。





タイの高校生と国際交流！　～多様性への理解と、自分たちの魅力再発見～

10 月 7 日（月）・8 日（火）の 2 日間、本校定時制にてタイのパトゥムテップ・ウィッタヤカーン学校の生徒の皆さんをお迎えし、国際交流事業を実施しました（協力：NPO 法人「ヤイ・夢・Asia」）。

当日は生徒会メンバーを中心に、来校したタイの生徒たちを温かく歓迎。各種授業や体験学習を通して、国境を超えた活発な交流が広がりました。

社会科・英語科の授業では、タイの高校生から自国の文化や学校生活についての発表を受け、お互いの暮らしの違いや魅力に耳を傾けました。体育の授業では、日本の伝統的な遊び「だるまさんが転んだ」を本校生徒が紹介。言葉の壁を越え、一緒に汗を流しながら笑顔で絆を深めました。家庭科では、調理実習が行われ、お互いの国のお菓子を作り合って味わったほか、修学旅行を控えた本校生徒から京都名物「八つ橋」を振る舞うなど、五感を通した楽しいひとときとなりました。

同世代の仲間と直接触れ合い、自国の魅力や学校の価値を自分の言葉で伝える体験は、生徒たちにとって「自分たちの文化の良さ」を再発見する素晴らしい機会となりました。主体的に関わり合い、相手を思いやるコミュニケーションを重ねたことで、多様性を受け入れるしなやかな心と、確かな自己有用感を育む 2 日間となりました。






北海道定時制通信制生徒生活体験発表大会　（1、3、4年生観覧）






北海道定時制通信制生徒生活体験発表大会が開催され、本校からは発表者として代表生徒が登壇したほか、1・3・4 年生が観覧として参加しました。

大会では、さまざまな境遇の中で学び続ける生徒たちが、日頃の生活体験や将来への思いを自身の言葉で熱弁。本校代表生徒も堂々とした姿勢で思いを届け、会場の深い共感と温かい拍手を集めました。

他校生の真摯な姿や熱意に触れた観覧生徒にとっても、自らの学校生活や進路をあらためて見つめ直す大きな刺激となったようです。個々の成長と絆の深まりを実感する貴重な一日となりました。

秋の進路体験会　（2年生）






2 年生を対象に「秋の進路体験会」を開催しました。

会場には多様な専門学校のブースが立ち並び、生徒たちは興味のある分野の体験授業や実践プログラムに挑戦。最初は緊張した様子もありましたが、体験を通してプロの技術や仕事の奥深さに触れるうちに、主体的に複数のブースを巡る姿が見られました。

実際に手を動かして働くイメージを具体化させることで、自らの職業観を養うとともに、今後の進路における選択肢を大きく広げる貴重な機会となりました。今回の学びを、これからの進路選択や目標設定にぜひ活かしてほしいと思います。

石狩地区定通体連新人大会にバドミントン部とバスケットボール部が出場








石狩地区定通体連新人戦にバドミントン部とバスケットボール部が出場しました。選手たちは日頃の練習の成果を発揮し、最後まで諦めずに熱戦を繰り広げましたが、惜しくも全道大会への進出はかないませんでした。悔しい結果となりましたが、得られた課題と手応えは大きな収穫です。この経験を糧にし、春の大会でのリベンジに向けてチーム一丸となり、さらなる高みを目指して日々の練習に取り組んで欲しいと願っています。応援ありがとうございました。